

## OPINION

## 葉山の魅力を開発、発信

## 提言

寒河江山岳会は今年、創立25周年を迎えました。記念事業の一つとして5月に寒河江市内で開催した講演会では、山の楽しみと安全登山をテーマに、山岳認定医・野口いづみさん（東京）から講話いただき、200人を超える参加者から好評を得ることができました。

県内の他の山岳会に比べれば、その歴史は浅く活動も十分とは言えませんが、好きな山歩きの傍ら地元のある山である葉山（村山葉山）を愛し、二つの活動に取り組んでいます。

一つは登山道の整備です。岩野コースと畑コースを山頂まで整備しています。特徴は



寒河江山岳会長

藤 正年  
く どう ま と し  
工 藤 正 年

会員みんなが参加することで、前会長の粕谷俊矩さんと葉山大好きな副会長・国井英雄さんが、全員参加型での年4回の計画を作りました。刈り払い機の担当者が先頭を進み、サポートAの人たちが燃料と冷たい飲み物を背に、刈られた笹竹や草を片付けながらついてきます。作業後の下山は早足になります。寒河江市の葉山市民荘ではサポートBの人たちが絶品の昼ご飯を作ってくれています。

もう一つの活動は、寒河江市主催の葉山登山の支援です。主管団体として、約30人の参加者を10人ほどの会員がサポートします。体調不良の人がいれば付き添って市民荘

大尊仏見晴台からひと登りすると岩野コースと合流し、お花畑に出ます。季節の花が登山道を彩り、月山が間近に見えます。小僧森、大僧森の上り下りで汗を流し、大ツボ石を過ぎると程なく1462の山頂。さらに進むと葉山神社です。畑コースを登り岩野コースを下れば大田院跡など修験の歴史にも触れられます。体力が心配ならお花畑までの往復でも葉山の自然を楽しめます。

会、市民荘、山岳会などが連携することが葉山の魅力の開発と発信につながると思います。会の中では、大田院が隆盛の頃、聖地だった立岩までの道も復活させたいとの夢も語られます。

丸いこぶを並べたような稜線が鮮やかに望まれる時季になりました。葉山は秋の装いへと移ろいます。オヤマリンドウが青紫の花をつけ、稜線から紅葉が始まり、やがてあのブナ林が黄金色に染まります。

5月の記念講演で野口いづみさんは、登山の良い点として「病気を予防し、精神的ストレスを発散させ、目的意識ができ充実した生活を送ることができる」と話していました。爽やかな空気をいっぱい吸って、山を、葉山を楽しんでみませんか。

（寒河江市在住）

登山道整備など実施 ■ 立岩までの道復活の夢も